

富士市立中央病院第二次中期経営改善計画

《平成30年度》

1 設定値の達成状況

(1) 医療機能等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成30年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
紹介率	67.9%	70.0%	72.6%	○
逆紹介率	55.6%	50.0%	60.7%	○
救急患者数	9,133人	11,200人	9,351人	
手術件数（件）	4,010件	3,850件	3,931件	○
患者さんアンケートによる地域貢献度	84.0%	85.0%	84.3%	
患者さんアンケートによる当院推薦度	86.2%	90.0%	88.5%	
退院調整実施率	19.6%	10.9%	33.9%	○
病診連携高度医療機器利用件数	1,815件	1,890件	1,795件	

(2) 経営等指標に係る数値目標

項目	前年度	平成30年度		
	決算	設定値	決算	達成状況
経常収支比率	100.1%	98.4%	99.3%	○
医業収支比率	94.3%	95.5%	93.2%	
薬品費対医業収益比率	13.9%	13.5%	14.7%	
診療材料費対医業収益比率	12.0%	11.7%	11.0%	○
給与費対医業収益比率	59.0%	57.9%	59.8%	
病床利用率	84.9%	85.6%	84.2%	
1日平均入院患者数	441.4人	445.0人	437.6人	
1日当たり入院診療単価	55,709円	54,843円	56,629円	○
1日平均外来患者数	956.3人	960.0人	946.1人	
1日当たり外来診療単価	14,238円	14,443円	14,927円	○
医師数	94人	99人	98人	
看護師数	478人	505人	483人	
看護師の離職率	7.1%	6.0%	5.0%	○

【自己評価】

平成30年度は、磁気共鳴断層撮影装置や体外衝撃波結石破碎装置などの更新を図るとともに、事務部の「医事課地域連携室」と看護部の「訪問看護室」及び「退院支援室」を組織統合した「地域医療連携センター」を設置し、提供する医療の充実を図ることにより、経常収支比率、目標を上回ることができた。

しかしながら、入院及び外来に関する設定値については、1日当り診療単価が目標を上回ったものの、1日平均患者数は目標を下回ったこともあり、減収となった。また、職員の増員により、給与費対医業収益比率についても目標を下回る結果となった。

次年度以降も、更なる収支の改善に向け、様々な取組を進めていきたい。

2 施策の実施状況

【自己評価】

基本施策と個別事業の1年間の取組状況を、計画に照らし合わせて5点満点で評価した。

基本施策		評価
事業計画		
1 患者サービスの向上		3.4
(1) 患者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修の参加人数を記載した方がよい。 ・ 患者さんアンケートで高い評価を得たことは、評価できる。 	3.4
(2) 情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値の設定値は妥当であったか（出前講座 50回、2,000人） ・ 院内コンサートは、素晴らしい取組だと思う。 	3.4
2 良質な医療の提供		3.3
(1) 医療の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急ストップは極力無くしていきたい。 ・ 手術室の効率的な運用が図れてきていると思う。 ・ 地域がん診療連携拠点病院取得についての対策は？ ・ キャンサーボード以外の取組状況の提示がされていない。 ・ 高度医療機器の整備について、ヒアリング結果、購入計画の提示がされていない。 ・ 目標値の設定値は妥当であったか（周産期医療 NICU利用率） 	3.2
(2) 地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退院調整は、大きな課題だと思う。 ・ 退院時返書率100%の診療科が増えているが、本来、返書は必ずするものであるため、入院患者のいる全ての診療科において100%となるよう活動したい。 ・ 事業計画とは別に、地域医療連携センターに大量の資源、資材が必要か。 	3.2
(3) 人材育成・確保に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修医を、マッチングにおいて定員5名確保できたことは、大きな成果だと思う。 ・ 県内施設と比べ、医師数は少ないが、看護師数は少ないとはいえない。 	3.5
(4) 安全・安心な医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値の設定は妥当か（薬剤病棟業務の充実） 	3.4
3 経営基盤の強化		2.9
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価計算、ベンチマークシステム 		2.7
(1) 収入の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤管理指導料への取組みは、結果を出せていると思う。 ・ 未収金対策で、回収率の目標設定が低すぎる。金額、人数、通院状況の詳細などが示されていない。 	3.1
(2) 支出の抑制		3.3
(3) 病院施設の運用		2.5
経営形態		
1 経営形態の考え方		2.6
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独法化、事務職の異動は経営のノウハウが蓄積されず効率的な経営ができない。 		

特記事項

- ・ 結果として経営状況は悪化しており、不十分であったということになる。
- ・ 職員の意識向上が必要。

【外部委員による評価】

(1) 患者サービスの向上について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	1人	6人	0人	0人	0人	0人

主な意見

- ・患者にサービスを提供に努力していることがうかがえる。
- ・接遇研修の実施により、接遇の向上に繋がっている点は評価できる。
- ・待ち時間の短縮は達成されていないものの状況を確認し努力がみられる。さらなる待ち時間の短縮に努力いただきたい。
- ・ウェブサイトの訪問数が多く、更に充実してほしい。何の情報を欲しがっているのか、分析をして、それに応えてほしい。

(2) 良質な医療の提供について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	0人	4人	3人	0人	0人	0人

主な意見

- ・高度で専門性の高い医療の提供に取り組む姿勢が見られると共に、地域医療の担い手の育成、人材確保に対する努力が感じられる。
- ・地域の連携はうまくいっていると思われる。
- ・一部事業において作業がほとんど進んでいないようだが、その他の項目については、計画達成に向けて努力していることが見受けられる。
- ・医師確保や看護師確保など自己評価が低いと感じるところもあった。子育て支援など、働きやすい環境整備は評価できる。必ず患者さんに還元されると思う。
- ・静岡がんセンターとのがんセンターボードは産婦人科医が参加していたが他の医師も検討してほしい。
- ・化学療法を受ける患者は多くなっていると思うので、レジメン集の作成は速やかに検討して安心して治療を受けられる環境をつくってほしい。
- ・医師数は、かなり充足できていると思う。今後は、中央病院に求められている、高度医療体制の充実、地域連携の強化への取り組みの強化を、対外的にアピールすべきである。

(3) 経営基盤の強化について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	1人	5人	1人	0人	0人	0人

主な意見

- ・予算を元に、その枠内で十分な対応ができていると思う。
- ・おおむね目標を達成し、評価が前年度からランクアップしている。

- ・ 指導料の算定が薬剤科中心に検討していて大いに評価できる。一方で、リハビリテーション科と栄養科にはもう少し頑張ってもらいたい。
- ・ 未収金対策において、一定の改善はみられたとはいえ、まだまだ低い回収率となっている。
- ・ 数年前からの課題である原価計算、ベンチマークシステムの活用が十分検討されていない。

(4) 経営形態について

評価	十分評価できる	やや評価できる	中程度	やや不十分	不十分	その他
	0人	0人	2人	2人	2人	1人

主な意見

- ・ 医療をとりまく環境が変化する中で、公的病院として、どのように経営していけば良いのか、更に検討していただきたい。
- ・ 調査・検討の実績がないことは残念である。
- ・ 経営形態検討を事業計画に掲げている以上、実績なしは問題があると考えます。

(5) 今後の改善提案等

- ・ 地域の中核病院として、救急医療に取り組むとともに地域医療機関や静岡がんセンター等との連携により逆紹介率を高め、向上させるべき医療分野を考えるべき。
- ・ 市民だけではなく、圏域外にもアピールできる専門的な高度医療への取り組み、充実がもっとも必要ではないか。
- ・ がん相談について、ニーズはあると思うので、情報が行き渡る工夫がほしい。
- ・ 各科ごと患者一人あたり平均診療時間が異なると思うので、待ち時間が少なくなるような予約時間設定をした方がよい。
- ・ 朝の駐車場が大変混みあっているが、朝の時間帯だけでも誘導員がいるとスムーズに流れるのではないか。
- ・ 私の提案については、掲示や掲載をどれ程の人が興味を持って読んでいるか疑問もあり、全体対応ではなく、毎月1~2件としぼって掲載してはどうか。
- ・ 経常収支比率は低下、医業収支比率は目標未達成である。原因を検討し、職員全員へのコスト意識を伝える努力をして欲しい。
- ・ 未収金対策の改善については、未然対策や支払方法の多様化など検討を行い、さらなる回収システムの構築に向けていただきたい。また、回収する方法だけでなく相談しやすいような状況を検討していったらどうか。
- ・ 現時点では経営形態を維持するとの判断だと思うが、他の形態に移行している公立病院がある中で、将来どうあるべきかを検討する事は常に必要である。
- ・ 経営形態については、人口減少や少子高齢化等、医療を取り巻く環境の変化や経営状況等に注視しつつ、新病院も視野に入れ考えていく必要がある。
- ・ 魅力ある病院を目指しての第三次中期経営改善計画という視点に立って、全ての事業において、職員が共有して取り組むことが重要と考えます。